

Funai Overseas Scholarship 第8回留学報告書

2022年12月
平山千明

University of California (UC) 系列大学全体での大学院生，ポスドクの大規模ストライキの印象が強すぎる秋学期でした。大学とUAW（大学院生の組合のようなものです）間で給料等の大幅な待遇改善案が提出され，約一ヶ月続いたストライキはそろそろ収束しそうです。

1 UC Strike

ストライキは企業の労働者組合が経営陣との交渉手段として行うものというイメージがあり，まさか自分が所属している大学がストライキに入るとは全く予想していませんでした。11月上旬に大学へ待遇改善を訴えるために全UC系列大学がストライキを行うべきかの是非を問う投票が行われ，11月中旬からストライキが始まりました。現在，大学とUAW間で待遇改善案が提出されこの案に同意するかという投票が行われています。この投票で賛成多数の場合ストライキが終了する予定です。このストライキが発生した一番の要因は雇用されている学生への給料が不十分であるということです。ここ数年でアメリカ全土で地価の高騰が続き，元々地価が高いカリフォルニアでは毎月給料の1/2以上を家賃に当てている学生も少なくはありません。その他にも大学内での様々なハラスメントへの対応，子供を持っている学生への支援なども含まれています。

ストライキでは主にピケティング（プラカードを持っての座りこみ，練り歩き），TA業務・研究活動のボイコットが行われていました。私は卒業要件に必要な最後のクラスを受講していましたがTAのボイコットにより課題の採点が全くされず，OHも開かれない状況でした。また，研究グループによっては一ヶ月誰も研究活動をしないところもあったと聞いています。ストライキに参加する・しないは各学生が判断することなのでストライキの影響はその講義のTA，研究チームによって様々でした。

このストライキに積極的に参加している学生と複数回話す機会があったのですが，大学院生，とりわけPhD課程に所属する学生は自分たちはworkerであるという考えを強く持っている印象がありました。私は卒業するまではどれだけ論文を発表してTA業務をこなしたとしても自分はいくまでstudentであると考えています。これは日本と他国との博士課程への捉え方の違い，あるいは仕事の捉え方の違い，何かしらのバックグラウンドからくる考えの違いが存在しているように思いました。

2 論文の査読者は誰

私が所属している学科はCSEで，Machine Learningの国際学会という数個の学会に絞られます。ただ，私の所属している研究チームの主な研究分野がCSEとME，EEの共通部分あたりになり，異なるバックグラウンドの査読者にあたりやすい傾向があります。それを考慮して論文の内容を調整しなければならないことをこの半年で痛感しました。この半年に主著・共著含めて数本論文を提出しました。査読コメントを見る限り査読者の一人はCS，Machine Learning分野の人，一人はME分野の人であることが多く，異なる観点からのコメントをそれぞれもらえたという点では良かったのですが，査読者間のバックグラウンドの違いによって議論の方向が全く収束しないまま査読結果が通達されるということが何度も発生して悔しい思いをしていました。ページ数の制限がある論文で，異なるバックグラウンドの査読者に当たったとしても議論が発散してしまわないより簡潔な書き方をすることを念頭に置いて追加実験を加えつつ論文の再提出を行っています。一年の時から少しずつ準備していた小型のロボットを用いた実験も本格的に行えるようになり，実験結果自体もより厚みを増しています。提案手法，実験結果自体は十分蓄積があるので落ち着いて学会への再提出に向けて準備しているところです。

3 おわりに

卒業要件に必要な単位数を全て取得し終わり（最後のクラスがストライキという終わり方でしたが・・・），残りは全て研究に時間を充てることができます。自分自身の研究，後輩のサポート，さらに学外との共同研究プロジェクトも始動しはじめて大変忙しいですが，様々な経験を積ませていただいております。PhD課程後半戦も気を抜かずに取り組んでいこうと思います。